

各地域支え合い協議会の取り組みについて

1 大津地域（平成28年12月設置）

- ・今年度に支え合い団体や地域で活躍した人などから、広く意見を聞く「オープンオブザーバー方式」で運営している。
- ・高齢者や地域のことを一緒に考えたいと、2つの中学校から申し入れがあった。どのような関わり方ができるか検討するため、先生をオブザーバーとしてお招きすることとなった。

【トピック】生活支援団体を立ち上げた代表が、オブザーバーとして参加された。7月8月は暑いので活動は休止する。自分自身が健康であるためには、無理をしない。身の丈にあった活動を長く続ける。との話で、構成員と意見交換した。

2 追浜地域（平成29年2月設置）

- ・町内を越えた生活支援団体が一つある一方で、新たな団体立上げに至らない。
- ・浦賀地域はなぜ活動団体が多いのかをテーマとして、構成員と生活支援コーディネーターが、8月13日に浦賀の取り組みをヒアリングする予定。
- ・先行的に取り組む町内会を決めて、支え合い活動の立上げに取り組む。

【トピック】子ども会と町内会が合同で資源回収をしている。共働き世帯が増えて土曜日は親が起きられず、年々、子どもが集まらなくなっている。

3 田浦地域（平成29年12月設置）

- ・既存の支え合い活動についてアンケートにて調査した。18町内会・自治会で78の活動がある。
- ・ベンチを設置するなどして、人が集う場をつくることが話し合われている。バス停までの途中の休憩所としてもベンチがあるといい、との話もある。
- ・谷戸やトンネルが多い地域特性から、ごみ出し問題を含めて共通的な取り組みの方向性を探っている。

【トピック】ごみ出しを手伝うから足腰が衰える、と近所の人から言われたとの報告が町内からあった。互助の必要性について、町内毎に丁寧に説明していくことを共有した。

4 浦賀地域（平成 30 年 5 月設置）

- ・地域運営協議会（以下、「地運協」という。）のアンケートによると、51 町内会・自治会の中で 17 の活動がある。
- ・3 つの町内会・自治会でお助け隊が立ち上がりつつある。
- ・支え合いを推進するために、地域で講演会を開催することを検討している。活動の有無で参加対象を分けることはしない。
- ・町内会等とは別に活動する団体もあるため、地運協福祉部会作成の「支え合い活動事例集」を最新化することで活動を把握する。
- ・通いの場と生活支援は接点がある。いつでも開いている町内会館のような形がとれないか。

【トピック】高齢化の伸展に伴い、休止していた支え合い団体の活動再開を、町内会青年部が模索している。

5 北下浦地域（平成 31 年 3 月設置）

- ・地域では既存の支え合いがある。どのような支え合いがあるのかを把握することで、今後の進め方を探る。
- ・アンケート調査を実施することとし、その内容や依頼先について検討する。
- ・デイサービスや金融機関などの民間事業者が、地域貢献の接点を探っているとのこと。今後の支え合い活動の連携先として視野に入れる。

【トピック】今支え合っている人が頑張ればよいと思っていた。資料「地域支え合い協議会の進め方」を読み、支え合い協議会の意味がわかった。できることを考えてみたい、との意見があった。

6 久里浜地域（平成 31 年 4 月設置）

- ・地域が広く地域内で特性が異なる。町内会の区分けが入り組んでいるなど、複雑な地区もある。地域の課題共有と今後の取り組みについて検討する。
- ・地域内の高齢化の状況をもとにニーズを明らかにして、アプローチ方法を検討する。
- ・福祉活動の一環として小中学校をまじえて防災訓練を実施している。災害時において高齢者にどのように対応するかも課題である。

【トピック】行政センター所管区域を越えて、隣接する小学校が合同で防災訓練を実施している地区もある。

7 共通事項

- ・委託先と高齢福祉課の生活支援コーディネーター（以下、「SC」という。）により、情報交換の場としての SC 連絡会を開催している。
SC の役割を説明するパンフレットや、補助金などについて情報共有した。
- ・各地域の取り組みを共有する場として、各地域支え合い協議会間の情報交換会を計画している。